

【質問コーナー及びフリーディスカッション】

(司会進行 大澤 寅雄氏)

(コメンテーター 古賀 弥生氏)

司会 ; 質問をたくさん頂き、ありがとうございます。午前中の劇場法に関する質問も結構ありますので、まず私から、いただいた3つの事例についての質問を先に読み上げさせていただきます。その後、後半に劇場法の質問にしたいと思います。

では3つの文化ボランティアの事例についての質問ですが、効率的に私の方から伺います。各事例に対していただいている、類似の質問3点について、お答えいただきますので、要点をとらえた回答をよろしくをお願いします。

サザンクス筑後さんへ質問

Q ; 学校へのアウトリーチのことで、10の小学校で43日間、139時間もの授業をされているということですが、具体的な内容を教えてください。

A ; 「表現演劇プログラム」、「発表会演劇プログラム」、「ダンス体験プログラム」、「鑑賞プログラム」等があります。毎年必ずこの時期にこのような資料を作成して筑後市の公聴会に提案します。決り次第2ヶ月の間に参加・不参加のアンケートをとり実施しています。

Q ; 筑後市内には数多い劇団が活動されていますが、劇団の財源の確保について。

A ; 基本的には私共の財団が補助しています。私どもで出来ることは全てやっけて、地域創造あるいは芸術の振興などの助成金を獲得できるようなことを毎年やっています。これは大きな財源になっています。

Q ; 市民の参加が凄いなと思いますが、土地柄人柄など何か秘密があるのでしょうか。

A ; 市内の商店街はかなり閉まっており、風土的にも行政が何かやってくればそれに乗っかろう、という風な人たちが多い土地柄だと思います。新幹線が開通するようになって新しく出来た文化施設「九州芸文館」など、人が集まってくる場所・施設を造り、そういうところと連携し合いながら人を創って行く、ということをしなきゃ何も始まらない町じゃないかと思っています。

司会 ; 有難うございました。古賀さんコメントをお願いします。

古賀 ; 以前から注目していて、時々サザンクス筑後の事業も拝見しています。

みなさんも今日、報告を聞かれ「凄い」と思われたと思いますが、その通りだと思います。久保田氏自身も管理係と事業係と兼務しながらアーティストでもあります。内部にこのようなアーティストがいることは強みですが、逆に言うと彼がいなくなったらどうなるの、という弱みに転じかねない心配もあります。

地元九州大谷短期大学があり、当初から連携されていることも人との繋がりではなく組織の繋がりですから非常に強みだと思います。

先ほど芸文館の話が出ましたが、まちづくりという観点で言いますと、芸文館が出来て、芸文館までは人が足を運ぶが、サザンクス筑後には来ない、とかサザンクスには来られるけど

芸文館に行くのに一駅は距離があるので足を伸ばさない。ではどうするか。

筑後市の事業企画委員会では非常にユニークな話がでできます。

芸文館からサザンクスまでは本当に何もなくて、そこに何か美術の像とか、そこを歩いて行くといろいろな物が発見できる、強いて言えば文化美術街道と言えるような、いわゆる「まち」としての整備をしたら面白いよね、とかその外にもいろいろな発想をお持ちの方はたくさんいらっしゃるの、それを繋げていく事が私達の役割なのかな、と思いながら今お話を伺っていました。

司会 ; ほんとサザンクス筑後にとって久保田さんは死ねない存在であり、久保田さんにとってもサザンクス筑後があることは悪いことができない(笑)。両者にとっていい関係ですね。

では引き続き筑紫野市市民劇場にお願いします。

筑紫野市市民劇場さんへ質問

Q ; 補助金の申請について具体的にお聞かせください。

A ; 大量の申請書類の作成、領収書の完備、終了後の大量の報告書、途中の交渉と、限られた時間内に限られた人員でやるのは大変な仕事です。ほぼ一人の常勤者が作り交渉事にも当たっていますが、イベントを毎年やるとかとてもできません、負担が大きすぎます。しかし大きな事業は補助金頼りになるのも事実で、もう少し申請など簡素になればありがたいのに、と実感しています。従って毎年毎年、補助金を申請するエネルギーや気力はございませんが、また何かやろうという時には頑張ってトライしなければならないな、とは思っております。

Q ; 劇の中で使った小道具として製作提供された洋菓子店は公募ですか。又経緯などは。

A ; やってもらえそうだな?とか、一番美味しいだろうと思うお店にいき「すみませんお願いします。お金は払えませんが」と頭を下げましたら「いいよ」と言って、忙しい店長さんが快く引き受けてくださいました。その後も稽古の度ごとに提供していただきました。

Q ; ボランティアさんに登録だけでなく、実働して貰うための工夫など教えてください。

A ; 活動を終えて「本日はご苦労さま」と言い、サンクスカードをお渡しする場面がありましたが、この時必ず「何かご意見や気づいたことはありませんか」とフィードバックすることや、市民企画事業の公募選定委員に入って貰うことにより、ポテンシャルを高めてもらうようなことも行っています。最近ではボランティアさんが友達に「面白いからあなたもしない!」と声かけしてくれて増えていますし、「この指とまれ」で忘年会に発展したり、このようなことの積み重ねが実働率アップに繋がっていくのかなと思います。

司会 ; 有難うございます。忘年会をおやりになるとか、「ザ・裏方」で T シャツを作ったとか、そういう工夫は大事だと思います。

ボランティアさんに対し、「有難うございました」という感謝の気持ちを伝えることも案外慣れ合いになってしまっているところがあると思いますが、区切りの時に「ありがとうございました」ときちんと気持ちを伝えるということは、単に登録しているだけではなく、参加して顔が見える関係をつくっていくことに繋がると思うので、大切なことです。

古賀さんいかがですか。

古賀 ; 先ほど館長のお話の中で、ボランティアさんがお友達に声かけて人を連れてくるというお話がありましたが、結局人と人との繋がりなのではないかなと思います。

職員さんたちが結構もがきながら頑張っている様子を見て、その様子を見ている市民の方が応援してあげようかな、ということだったり、そこで楽しそうにやっている方を見て、私もやってみようかな、とくっついてきたり、とかそのように人が人を呼んでいる部分があるのかなあ、というようにお見受けしております。

北九州国際音楽祭実行委員さんへ質問

Q ; アコルデのような市民の自主的な音楽ボランティア組織の中で若い方に繋いでいく良い方法アイデアをお聞きます。

A ; 「北九州国際音楽祭ボランティアの会」があり、毎回パンフレット等で告知して応募してもらっていますが、そもそも応募される方も少なく、入ってくる方も程度高齢ですから幾つなら若いのかということにもなりますが、現状では若い方へ繋ぐことは難しいと聞いています。

例えばサザンクスさんからも話が出ていたように、近隣の学校と連携して若い力を活かしていくような方法はないか、と考えているところです。

Q ; チケット販売について、オンライン会員への販売はボランティアの実績にならないのですか。

A ; ボランティアを介していませんので実績とはなりません。ネット販売は急速に増えており、ほとんどどこでも導入されていると思います。最近では高齢の方もかなり利用されているようです。

Q ; 北九州国際音楽祭は、実行委員会が運営されていますが、行政の援助についてお答えできる範囲でお願いします。

A ; 実行委員会の会長は北九州市長です。北九州市は、毎年 TOTO さんから音楽祭に対する寄付金ということで資金を頂いており、それを実行委員会が市から補助金としていただき、チケット収入、文化庁の補助金等と合わせて運営しています。

司会 ; はいありがとうございます。チケット販売のことを聞きながら、インターネットを使い便利になっている背景で、ボランティアの方々がチケットを売るということは単に売上枚数だけではないと思いました。つまり、チケットを販売する時にコミュニケーションがそこに生まれるわけですから、チケット販売がお年寄り同士の会話の一つのツールになり会話が増える、そのことにより新しい企画に結びつけば、良い成果を産むということも考えられます。

古賀さん、何かございませんか。

古賀 ; ボランティアは若い人に繋ぐのは中々難しいのですが、何度も申し上げているように高齢化は決して悪いことではありません。高齢者の人口が増えているわけですから、元気な方を増やしていくということではないかだと思います。一方で確かに若い人を増やしたいというお気持ちもわかりますが、私の体験では、はっきり出来上がっている組織とか出来上がっているイベントに、若い人が後から入るのはすごく難しいですね。隙があるところ、ここ手

伝わないと駄目だ、というところのほうが入り込みやすいし、やっていて楽しいですね。

若い人たちは、もぎりとか受付等の現場の業務だけではなく、企画とかそういうものに関わりたいと思っている人が結構多い、という傾向もあります。何か新たなものに関わるためには、隙があるようなところ、しかも現場業務だけではないところにも関わられるような仕組みを作ってあげることも必要なのかなと思いました。

司会 ; はいありがとうございます。3つの事例について質問すべては拾えませんでした。ここからは劇場法に関する質問に移りたいと思います。